

みなさん、こんにちは中村です。お元気で活躍のことと思います。地震が各地で起きていますが物心両面の準備は如何でしょうか。千代田区ホームページから「企業・団体の地震対策ガイド」を一部ご紹介します。大地震は企業にとって「危機」となった。企業活動にも大きな被害が発生。初動対応マニュアルが必要。大混乱の中、非常に効率の悪い対応となる。平常時の組織は機能しない。交通機関も寸断され組織だった活動ができなかった。等等... やらなければと思いつつ、なかなか上手く出来ない危機管理。まずは避難・防災用品の常備からですね。

監理技術者講習随時受付中

建設業法第26条第2項の規定により発注者から直接工事を請け負い、工事の一部を下請業者に発注する、その金額が3000万円以上(建築一式工事は4500万以上)になる場合には一定の資格を有する監理技術者を現場に置かなければなりません。

国や地方公共団体等が発注する公共工事に監理技術者として専任で配置される者には、同第4項の規定により、国土交通大臣の登録を受けた機関が行なう「監理技術者講習」の受講が義務付けられています。

**平成16年2月29日以前に受講した場合、講習受講日から5年間は「国土交通大臣の登録を受けた機関の実施する監理技術者講習」を受講したものとみなされるので再度受講する必要はありません。

**公共工事の監理技術者として専任で配置されるためには、監理技術者講習の受講と監理技術者資格証の交付申請の両方が必要です。(どちらを先に行なってもかまいません)

下記の表は、国土交通大臣の登録を受けた機関の一覧表です。(H16.10.28現在)

郵送申込みの他、インターネット申込みを受付けている機関もあります。講習日や開催地、受講料などを参考に受講者が自由に選択できるようになりました。

実施機関一覧	ホームページアドレス	電話 & 受講料	開催地	ネット申込
(財) 全国建設研修センター	http://www.jctc.jp	03-3581-0847 ¥12,300	全国各地で開催	
(財) 建設業振興基金	http://www.kensetsu-kikin.or.jp/	03-5473-1586 ¥12,300	全国各地で開催	
(株) 建設業産業振興センター	http://www.kensetsu-shinkocenter.co.jp/	03-5473-4590 ¥11,000	全国各地で開催	
(株) 建設業産業振興センター・ (財) 建設業振興基金 テレビ講習	http://www.kensetsu-shinkocenter.co.jp/	03-5408-1889 ¥11,000	テレビ講習	
(社) 全国土木施工管理技士連合会	http://www2.familie.ne.jp/~jcm/	03-3262-7421 ¥11,500	全国各地で開催	
(財) 神奈川県都市整備技術センター	http://www.toshiseibi.or.jp/	0467-58-1227 ¥12,000	神奈川県内各地	×
(株) 総合資格	http://www.shikaku.co.jp/	03-3340-2811 ¥10,500	東京・名古屋・ 大阪	

ご注意！！ 各講習会場で「監理技術者資格者証」の交付申請は行っておりません。最寄りの(財)建設業技術者センターの支部へ郵送(実務経験の場合を除く)又は持参(代理人可)して申請することになります。(財)建設業技術者センターのホームページ <http://www.cezaidan.or.jp> にてインターネット申請も出来ます。(峯田)

シリーズ建設業許可Q & A

Q これから今期の決算変更届に添付する工事経歴書を下書きしているところですが、面倒なので適当に書いてもよいのですか？

A 工事経歴書の記載について経営事項審査を受ける必要のない場合には特に決まりごとはありませんが、虚偽の記載とならないように、契約書・注文書・請求書等からできるだけ正確に転記するようにしてください。記載した工事経歴書は希望があれば誰でも閲覧することができ、発注者等に情報を公開・提供する機会にもなりますので実績や能力等を正確に公表する意識をもって記載されると良いと思います。(佐久間)



蒸留酒の一つである焼酎は、酒税法で甲類(連続式蒸留機)によってアルコール含有物を蒸留したアルコール分三十六度未満の焼酎(と乙類(アルコール含有物を連続式蒸留機以外の蒸留機で蒸留したアルコール分四十五度以下の焼酎)に分けられている。この乙類焼酎こそが、本格焼酎の名で呼ばれる、原料の風味豊かな個性派焼酎である。本格焼酎のラベルを見れば、製品によって米、さつまいも、麦、黒糖など、様々な原材料が使用されていることがわかる。これらが本格焼酎に独特の風味を与えているわけだが、同時にそれは、産地の気候風土や歴史とともに育ってきた証でもある。

焼酎は日本にとって最初の蒸留酒。伝来は十五世紀頃とされ、通説ではタイから琉球に伝わった米焼酎が泡盛となったのが、それにあたる。最初は米焼酎だったわけだ。その後九州などへ広がっていったが、米作に不向きな鹿児島では、サツマイモを使った芋焼酎が発達。また吉岐では、余った麦を用いて焼酎を造るなど、地域色豊かな発展を遂げた。個性の中に、先人の工夫と努力が詰まっている。(藤田)